

2019年度 教育の事業報告

1、校内研修会の取り組み 年間テーマ「子どもの事実から感じ取ったことを分かち合う」

1学期 2019年7月22日(月) 9:00~16:30

テーマ：「聴覚の可能性を追求するお二人に聴く」

講師：加藤大典先生(本校元教諭)、大庭純子さん(本校卒業生)

本校オーディオロジ一部元主任の加藤大典先生から子どもの事実を通して聴覚の可能性を追求していった歩みについての話を、そして、幼児期からの補聴器活用に始まり現在では両耳人工内耳を装着し聴覚主導の生き方を体現している本校卒業生である大庭純子さんより、聴覚を最大限に活用していく人生の広がりや深みについての話を伺う機会を持ち、聴覚主導を追求する教師自身の子どもの向き合う姿勢を学ぶことができ、これからの新たな取り組みに生きる研修となった。

2学期 2019年12月23日(月) 9:00~16:30

テーマ：「発達面で特に配慮が必要な子どもについてのVTR研修」

各部より発達面で配慮が必要な子どもの実情を伝える映像を持ちよってのVTR研修を行った。「本校にいる配慮が必要な子どもの現状を知り共有すること」を通して、「子ども自身が持つ成長していく力」と「日聾教育の可能性」とを全校で確認し学び合う時となった。

3学期 2020年3月23日(月) 9:00~16:30 《新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止》

第1部テーマ：「各部1年間の研修報告—研修の内容、重点事項確認、今後の課題—」

各部1年間の取組の報告と分かち合い

第2部テーマ：「100周年の節目にみんなで考える日聾の現状と今後」

- 変わらないものと変えていくもの、生み出していくもの -

小グループに分かれテーマにそって自由に話し合い、各自が感じている「日聾教育の現状」と「これからの聴覚主導の人間教育への展望」を共有する時を持つ。

2、各部2019年度重点課題の取り組みと2020年度へ向けての課題

1) 乳幼児(ライシャワ・クレマ学園)：

「ライシャワ・クレマ学園の教育活動—確認とまとめ—」の見直し、他

ケース会議の取り組みでは親子のねらいについてだけでなく、教師のデモンストレーションそのものに視点を絞った研修を行った。「親子の目標にそったデモンストレーションか」「子どもの発達にあった教材を選んでいるか」「日常の親子の関わりのヒントになるような家庭で実践できる内容か」等について意見を出し合い、今後の親子への必要を学び合った。さらに、発達に配慮が必要な子どもがグループ活動に少しでも集中できて順番が分かって参加できるような工夫の検討を行い、落ちついて注目し話を聴く姿が見られるようになってきた。

(2020年度へ向けて)

・スタッフ間でのクラーク先生からの学びの共有を更に丁寧に進めていくことを中心に取り組み、個別の際の教師デモンストレーション時の親の気づきや変化を検証していくことで、より母親に寄り添った保護者支援の在り方を求めていきたい。

2) 幼稚園：「幼児期を意識した活動内容の充実—幼児の生活や遊びに即した活動へ—」（2年目）

・幼児期の生活や遊びに即した幼児らしい内容の充実を目指して取り組み、「幼児にふさわしいか」「幼児の生活に密着した題材か」そして「今の子どもたちに必然性があるか」の視点を持って活動に臨み、何よりも子どもの姿からの学び合いを大切にしている研修を行うことで願いにそった教育を展開することができた。

（2020年度へ向けて）

幼児期の生活や遊びに即した更なる教育の充実を目指して、今、目の前にいる子どもたちの姿から感じ取る分ち合うことを大切にしつつ「子どもの思いや気づきに寄り添い、そして、育む」歩みを進めていきたい。

3) 小学部：「子どもの事実を共有し、インタラクションの本質を探究する」

本校の教育の核である個別インタラクションの本質を確認し共有するために、以前行ったワーク研修の映像（個別、講義）を見る研修の時を持った。教師が子どもと向き合う姿勢や、子ども自身が思わず話したくなり考えたいための関わり、雰囲気作りや質問の在り方等、改めて基本に立ち返る学びができた。インタラクションの深まりには、日常的に生活を共にする中で子どもの姿をどう教師が把握しているかの、互いの関係性の深まりが大事で、それが子どもの思考を深めたり視野を広げたりする問いや、その子にふさわしい期待値を持つことに繋がることの確認ができた。

（2020年度へ向けて）

・インタラクションの学びでは「今度はこうやればいい」「こう質問すればいい」というような方法論的な解釈で安心してしまう心配があるため、インタラクションの本質を見失わないためにも相互分析を頻繁に継続して取り組む必要を感じている。

・グループにおける教育活動の充実を図る必要を感じる。子どもの聴こえとことばの成長は目ざましく喜ばしいことではあるが、それに甘んじることなく、人、もの、こととの出会いを学習活動の中でどれくらい大事に意識し展開しているかが問われているように思う。そこで、子どもと共に創りだし、編み出す活動である生活・総合の取り組みを充実させるべく学び合う時期に来ていると考える。

4) 中学部：「自己の内面を語る生徒～経験（体験）を通じた生きたことばで語り合う～」

個別及びグループインタラクションを土台として、培われてきた力を土台とし、生きた自分のことばで語り合う事を重ねていく中で、自己を見つめ、他者との関わりを深め、卒業後広い社会に出ていく自らの可能性を広げていってほしいと願い、そのための「個別VTR分析」「授業研究会」等に取り組んだ。授業研究会では、ホームルームの他に美術、社会の授業研を行い、教科による授業研をすることで、教え込むのではない、生徒と共に考え学び合う、グループインタラクションを軸とした日頃の授業について考える研修となり、教え込みではない、子どもと生徒と一緒に教科の内容を深めていくという授業の本質を考える学び合いとなった。

（2020年度へ向けて）

・教師も生徒もそれぞれが一人の人間として、他者と心が響き合う経験を重ねながら、共に高め合う関わりを築いていけるよう、日々の教育活動を行っていきたい。

- ・両側人工内耳増加の傾向もあり、グループの質が良い意味で複雑化しているが、その中で生徒は様々な学校行事を通して社会に適応する能力が育まれてきているので、教師が互いの学年を尊重しつつ日々の活動を紡ぎだす力量が求められている。

5) オーディオロジー部：

「子どもの様子を見る時間を作ることを通し、より必要なサポートを行えるようにする」

- イヤモードとフィッティングを安定的に提供できるよう全スタッフで研修を重ねる -

イヤモードを安定して扱えるようにするために、実践を共有することを通しての研修に取り組んだ。年齢別に担当者を分けること、回数を重ねることで技量を高められるよう学び合ったが、そのことがより安全性への意識を持つことに繋がった。また、新しい体制の中、安定的なフィッティングの提供が求められているが、まずは何よりも実践を通しての経験的な感覚を身に着けることを大事にして取り組んだ。

(2020年度へ向けて)

- ・フィッティングは一人ひとりに丁寧な調整を進めていくことが望まれるので、オーディオロジー部として理論的に説明できるよう、そして、状況に応じ柔軟に対応できるよう今後も研修を進めていきたい。
- ・児童会室、生徒会室で使用できる、相互通話用マイクの可能性を追求しているが、小・中学生のグループインタラク션을活性化させられる、管理がし易く、音の良いマイクを探求していきたい。

3、その他

1) 100周年第1期工事実施

- ・期日：2019年7月20日から9月30日
- ・場所：小中棟1・2・3階改修工事

南側の各教室の改修工事と窓サッシ交換終了により、各教室の防音効果が上がり会話をする上での音環境が改善された。

(小学部児童会室、中学部生徒会室及び北側個別室他を除く)

2) 本校ホームページの改訂

- ・2019年10月改訂

本校の教育を必要とする方々へより広く迅速に届けるために、ホームページをスマートフォン対応に改訂した。手軽につながるができるため、入学に関する相談や寄付の問い合わせ等、以前よりスピーディーに連絡を受けることができるようになった。

3) 子育てについての小冊子「宝箱をいっぱい」の作成と医療機関への配布

- ・2020年1月完成、医療機関配布開始

入学者を増やしていくための本校教育を伝える小冊子「宝箱をいっぱい」を作成し、わが子の聴覚障がいを知った保護者がすぐに手にとって見ることができるようにするために関係の病院への配布を始めた。2月以降新型コロナウイルス感染の影響を受け、当初願っていたようには配布できていないため、今後有効に活用していきたい。